



## アート教育の実践と展開について ともに学ぶ研修会

「教育」や「アート」に関わるさまざまな立場のみなさんで「アート教育」の実践と展開について、ともに学びあい、つながりあうことを目的とした研修会です。現在、さまざまな分野で注目されている「ワークショップ」「アウトリーチ」をキーワードに、教育関係者、劇場・音楽堂関係者、実演家・演奏家、学生、NPO等が一堂に会し、教育をはじめとした様々な「学びの現場」におけるアートを活かした実践力の向上をめざします。

今回で5回目となるラボのテーマは「**ふりかえることの大切さ、効果を学ぶ**」。  
国内有数の講師によるワークショップを「素材」として体験していただき、その後、アートの多様性を活かしたプログラムの構成や、参加者に配慮した進め方、目的達成に向けたデザインなどについて、専門家と共にふりかえり、考えます。



### 各種情報展示を同時開催

- 三重県総合文化センターが取り組む教育普及事業「キッズアートプロジェクト」の事例紹介
- 三重県生涯学習センターが取り組む学校向け文化体験事業の事例紹介 など



## 私たちの目指す「アート教育」

アート教育といっても、「優れた実演家や演奏家を育てる (Arts Education)」という意味ではありません。「アートで教育分野を豊かにする (Arts In Education)」という方がしっくりくると思います。

大学をはじめとした芸術系専門機関が少ない三重県においては、県立文化施設である私たちに、その普及や育成の役割が求められていると考えます。そして、アートの力を必要としているさまざまな現場と、アートに関わる様々な組織団体(個人)とをつなげ、より豊かな学びを提供していくことをめざし、様々な事業の推進に取り組んでいます。

## program プログラム

ふりかえることの  
大切さ、効果を学ぶ

- 9:30 受付
- 10:00 開講 オリエンテーション
- 10:10 **1** 基調講演 (60分)  
**ワークショップ型の“学び”を活かす  
ふりかえりとは?**  
講師: 苅宿俊文 (青山学院大学教授)
- 11:10 **2** ミエ・アート・ラボ修了生によるワークショップ試演会 (60分)  
これまでの「ミエ・アート・ラボ」修了生2名が、当時の演劇ワークショップで学んだ内容を活かし、三重県男女共同参画センターとともに、子どもに多様性を伝えるプログラムを開発中です。その途中経過を発表します。  
監修: 南波 圭 (NPO法人演劇百貨店)

知  
る

見  
る

### 昼食休憩

- 13:00 **3** ワークショップ体験 (90分)  
**「ダンス」を学ぶ(伝える)ための  
ツールとして意識したワークショップ**  
講師: ダンスカンパニー セレノグラフィカ  
※ワークショップ中は、動きやすい服装でご参加ください。また、裸足になる場合があります。
- 14:45 **4** 体験したワークショップをふりかえります。  
**① ファシリテーター(伝える側)の視点から**  
講師: ダンスカンパニー セレノグラフィカ
- 15:30 **② クライアント(受ける側、活用する側)の視点から**  
講師: 苅宿俊文 (青山学院大学教授)
- 16:30 **5** パネルディスカッション (90分)  
**ワークショップをふり返って  
見えてくるもの**  
パネリスト: ダンスカンパニー セレノグラフィカ      コーディネーター: 吉野さつき (愛知大学准教授)  
秀 和代 (Hide Dance Lab 主宰)      助言者: 苅宿俊文 (青山学院大学教授)  
長谷川峰子 (三重県総合文化センター職員)

感  
じる

ふり  
かえる

考  
える

※ふりかえり①②については、受講者の希望に応じて「参加」または「聴講」を当日に選んで受講いただけます。